

博物館だより



No.109

平成27年12月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667



みやこ町歴史民俗博物館

リニューアルオープン!

おかげさまで無事開館。新しくなった博物館へみなさんもぜひ!

およそ一年間の休館を経て、去る11月22日(日)、みやこ町歴史民俗博物館が無事リニューアルオープンしました。

これまでの郷土資料に加え夏目漱石ゆかりの小宮豊隆資料や小笠原文庫など、注目の資料が常設展示されています。

また、バリアフリー設計やAV設備の充実等、これまで以上に多くの皆さんに学び・楽しんでいただける施設に生まれ変わりました。新しくなったふるさと文化の殿堂・みやこ町歴史民俗博物館へぜひお越しください!

●新展示コーナーの例

小宮豊隆記念展示室
夏目漱石の門下でドイツ文学者、文芸評論家であった小宮豊隆の資料を展示しています。
先人の殿堂

現在のみやこ町出身で、後世の大きな業績を残した先人たち10名を紹介しています。

●観覧料 大人 200円
高校生以下 100円

●開館時間 9:30~17:00
(入館は16:30まで)

●休館日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始

博物館友の会

会員募集!

みやこ町歴史民俗博物館友の会は「故郷を楽しく学ぶ」をモットーに、講演会やバスハイイク・歴史たんけんウォークなどさまざまなイベントや学習会を行っています。

博物館のリニューアルを機により多くの仲間を募り、博物館と共に活動の充実を図りたいと考えています。関心のある方なら、どなたでもお気軽に参加いただけます。ぜひ、ご入会ください!

●入会の方法
窓口で会費を納めてください。

●年間会費

個人会員 3,000円
家族会員 1名 2,000円
※年度途中の入会は月割会費

♪お問い合わせ先
みやこ町歴史民俗博物館内
博物館友の会事務局
Tel 0930-33-4666

12月期歴史講座について

【漢詩紀行講座】

・12月5日(土) 9時30分

【古文書講座】

・12月12日(土) 10時00分

【みやこ学講座】

・12月13日(日) 9時00分

【金曜古文書講座】

・12月18日(金) 10時00分

【古典かな講座】

・12月19日(土) 9時30分

※日程等変更の際はお知らせします。



▲秋月の紅葉の見頃はまだまだでしたが楽しい一日でした

10・11月の業務日誌から

10月17・18日(土・日)を皮切りに、博物館では11月上旬までの間、仮事務所の引っ越しや新資料の搬入作業等、リニューアルにむけての人やモノの移動で大忙しでした。

11月3日(火)、秋のバスハイイクで朝倉市秋月地区等を訪ねました。秋月では当館友の会とも交流のある秋月街道ネットワークの会・内田恵三さんにご案内いただきました。



▲新展示の目玉の一つ。山笠車輪の館内搬入状況

みやこの歴史発見伝 83

些見大塚古墳

— 京都平野で唯一の「彩色装飾壁画」古墳 —

リニューアルとともに「里帰り」

リニューアルされた博物館には小宮豊隆資料以外にも目玉となる展示資料がいくつか用意されています。そのうちのひとつが些見大塚古墳の出土品で、館のリニューアル前の最近に保存処理が終了したため、今回「里帰り」兼「京築のお披露目第1号」が実現する運びとなりました。金銅装の太刀やお供えの須恵器を飾った馬や鳥・人物などの粘土形など、注目資料が目白押しです。出土資料も注目されるこの古墳について改めてご紹介してみましよう。



▲発見時の些見大塚古墳（北上空から）九州歴史資料館提供

京都平野初の装飾古墳発見

些見大塚古墳は、6世紀後半頃に造られた直径約25m（周溝を含めると約30m）の円墳です。

平成21年（2009）に東九州自動車道の建設工事にもなつて行われた発掘調査により、石室内部に彩色壁画が発見され、この古墳が京都平野では唯一、彩色の「装飾古墳」であることが判明しました。また、壁画の内容に、装飾古墳が盛んにつくられた筑後川流域（福岡県南部）や肥後（熊本県）の影響も見られることから、ここに葬られた人が、それらの地域と何らかの関

係のあったことが推測されています。東九州自動車道建設のため、この古墳は発掘調査終了後に取り壊される予定でしたが、大変貴重な古墳であるため保存措置が講じられました。

些見大塚古墳の彩色壁画

些見大塚古墳の石室（遺体を埋葬するための施設）には、赤い顔料で様々な文様が描かれています。黒い顔料が使われた可能性も指摘されていますが、現在判



▲古墳の石室に描かれた壁画の復元図（黒い彩による▲や●が壁画）九州歴史資料館編 東九州道関係埋蔵文化財調査報告書17「些見大塚古墳」2015刊 より転載



▲出土した粘土形（人物・鳥・馬）同報告書より転載

別でできる彩色は、ベンガラ（鉄分の多い土を焼いてつくった顔料）を用いた赤色です。描かれた文様は、三角文と、三角形を組み合わせた対角線文（×印）、それに同心円文です。三角文は、蛇や竜の鱗を表して魔を祓う意味があるといわれ（対角線文も同じ）、同心円文は、鏡や太陽を表して、霊力を象徴する文様だったといわれます。

古墳内部に装飾をほどこすのは、死者の魂を、石室という閉じられた暗黒の空間から、死後の世界である「黄泉の国」へ誘う意味があったと考えられます。

以上は発見時の遺構に注目したレポートで、副葬品の詳細把握が不十分だったのですが、整理の結果、被葬者が重厚で充実した内容の副葬品を持つ祓川流域屈指の首長であることが分りました。地元発見の貴重な資料をこの機会に是非ご覧下さい。